

名所

儀善多シテ悪ス多クナシ、女モケナゲニシテ耻ヲ知レリ、
〔日本鹿子^六〕參河國名所舊跡之部

八橋 岡崎の宿より、ちりうの宿へこゆる中間より、半路ばかり北のかた、八橋と云村の中にあ
り、南より北へ流るゝ小川にわたしたる橋なり、むかしなりひらの朝臣、此橋の澤邊なるかき
つばたを見て、たびの心をよめる歌、

から衣きつゝ、なれにしつましあればはるゝ、來ぬる旅をしぞ思ふ
いかなるゆへにや、此在所になりひらの石塔なりと云傳て、今にあり、

花の瀧 八橋の村より三町餘、ひがしのかたに有之、

矢作の里 岡崎の宿より西の出はづれに河あり、矢はぎの橋と云、此橋をこゆれば、矢はぎの里
なり、東やはぎにしに、しやはぎと云、ひがしのかたの田中にやぶ有むかし、矢はぎの長がすみ
し跡とてあり、此所を矢はぎと云事は、むかし日本武の尊東夷をほろぼさんとて、此所にくだ
り、矢を多く作らせ給ひしより、此名ありと云傳なり、

長居せそ心して、いよあづさ弓矢はぎの川の鷺の一むら

宮地山 矢作の里より近し、北向の里也、東に川あり、山は高からず、後撰戀のうたに、

君があたり雲井に見つゝ、宮地山打こえゆかんみちも知らなくに

二村 宮地山ちかくなり、千載夏の歌に、權中納言俊忠、

五月關二村山のほとゝぎす、峯つゞきなくこゑを聞かな

衣の里 二村よりは北也、行程一里ばかりなり、

程ちかく衣の里も成にけり、二村山を越てきつれば

豊河 今橋と云里より北なり、三河の國の北は山つゞき也、八橋と云所より遠江の國高師山の